

地域福祉センターの活用促進に向けたモデル事業の実施

資料3

- ・新たな活動への意欲はあるが、マンパワー不足やセンター利用率の低迷など課題のある「ふれあいのまちづくり協議会」に対し、行政が積極的に連携先を紹介し、多世代交流等の事業に取り組む。
- ・連携先としては、大学等教育機関・NPO・企業・ボランティアを希望する個人など。

区	東灘	灘	中央	兵庫	北	北神	長田	須磨	垂水	西	計
モデル実施 検討数	3	6	3	5	3	4	3	3	4	4	38
内容（案）	<ul style="list-style-type: none"> ・ コープこうべと連携した共同購入事業とふれあい喫茶・子育てサークル等による交流会 ・ 大学生と連携した学習支援事業 ・ 企業や高校等と連携したプログラミング教室 ・ ふれあいのまちづくり協議会についてみんなで考えるワークショップ ・ 図書館と連携したフリーリトルライブラリーや読み聞かせ教室 ・ 区社会福祉協議会と連携したボランティア講座の開催 など 										
連携先	大学（神戸大学・甲南大学・神戸学院大学・神戸市外国語大学など） 高校（長田商業高校・神港橘高校・神戸星城高校） 企業（株式会社ワイヤ・アンド・ワイヤレス、株式会社レッドホースコーポレーション、株式会社ダイドードリンコ、生活協同組合コープこうべ） 地域ICT推進協議会（COPLI） NPO（認定NPO法人 CS神戸、公益財団法人ひょうごコミュニティ財団） KIITO、ふたば学舎 など										

モデル事業の実施例（プログラミング教室）

- ・地域福祉センターに設置した公衆無線LANの活用の一環として、設置契約業者の提案により、夏休み期間を活用して実施（市内10カ所）。多くのセンターで募集枠が募集早々に定員に達した。
- ・小学生や同伴の保護者世代に対して地域福祉センターの存在やふれあいのまちづくり協議会の活動を周知する機会となった。
- ・実施するセンターの選定・実施にあたっては、企画調整局と区役所まちづくり課で事前に協議を行い、区役所まちづくり課を通じてふれあいのまちづくり協議会と詳細調整のうえで決定した。
- ・モデル実施では個別的な対応を行いうる件数であったが、今後、同様の事業を全施設的に行おうとする場合、多くのセンターで、市・区・地域において手軽に行えるスキームの構築を検討する必要。

春日野地域福祉センターでの実施例



八多地域福祉センターでの実施例



プログラミング教室を実施してみても

(1) メリット

- ・ 地域福祉センターを利用することの少ない子どもたちや現役世代の参加が見込める
- ・ (高齢者も一緒に参加することができれば) 地域のデジタル化の推進にもつながる可能性がある

(2) 課題

- ・ 地域住民団体であるふれあいのまちづくり協議会が主催するには費用面の課題がある
※現在、実施業者に問い合わせたところ 1 開催につき講座実施に13万円
+ PCレンタル・セットアップ保管費用・企画料などをあわせて計35万円ほどかかる見積
- ・ また、教室で使用するPC (タブレット) の準備がふれあいのまちづくり協議会には困難

(3) 今後について

- ・ 上記課題を解決するため、高校 (特に商業科) の教育活動や企業の社会貢献活動の一環でIT関連企業等と連携して可能な限りローコストで実施することができないか検討中。
- ・ e-スポーツ等への拡大・発展の可能性を検討 (子どもから高齢者まで集えるコンテンツとして)